

ミツバチによる夏秋キュウリの着果調節

福島県農業試験場 野菜部
平成17年度試験成績概要

1 部門名 野菜－キュウリ－生育調節・作型・栽培型
分類コード 03-01-16180000

2 担当者 佐藤睦人

3 要 旨

(1) 夏秋キュウリの着果数および収穫数を調節する方法として摘果があるが、作業に多くの労力を必要とするため省力的な技術開発が求められていた。そこで、防虫ネット栽培の夏秋キュウリにおいて、ミツバチを用いた着果調節法を検討した。

(2) 4月27日播種の「金星114」（「パワーZ2」に接ぎ木）を用い、目合1mmの防虫ネットハウス内で栽培した。7月5日から8日ならびに8月8日から11日の2回（それぞれ4日間）、ミツバチを圃場外に出し、その後の収穫量を調査した。

(3) その結果、ミツバチを施設から出すことにより、8～9日後の合計収穫果数が無処理区より約7割少なくなった。

以上の結果、ミツバチを一定期間施設から出すことで省力的に着果数および収穫数を少なくすることができると考えられる。なお、この技術はミツバチを導入した防虫ネット栽培でのみ実施できる。また、効果が現れる日数は、7月上旬から8月上旬に4日間ミツバチを施設外に出した場合のものである。

4 その他の資料など